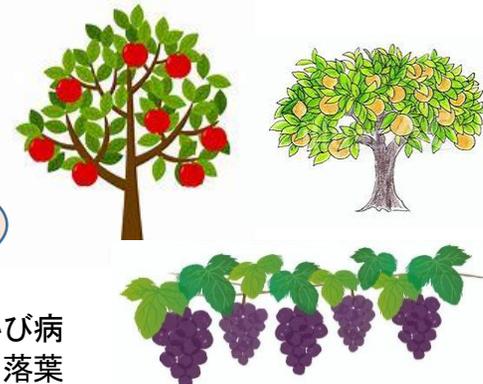




落葉果樹の冬季防除を徹底しましょう

ナシの黒星病やハダニ類など病害虫の越冬密度を減らすため、冬のうちに園内の落葉処理や粗皮削りなど耕種的な防除作業や薬剤防除を行うことが重要です。

本年、病害虫の発生が問題となった果樹園では、下記を参考に防除を徹底してください。



1 圃場内の落葉処理などを徹底しましょう

今年、ナシ黒星病が多発生した園は特に徹底しましょう！！

果樹病害の多くの病原菌（黒星病、落葉病、うどんこ病、べと病、さび病、灰色かび病など）が、落葉で越冬する他、ハダニ類など害虫も落葉の下などで越冬しますので、落葉はそのまま放置せず、ブロワ等を利用して出来るだけ丁寧に集め、土中に埋めるなど適切に処分してください。

また、園内で落葉が集まる場所（季節風の風下など）に、深さ30~40cmの適当な幅で溝を掘り、そこに集まった葉を翌春の3月までに埋め戻すなどの方法や、ロータリー耕等により、落葉を粉碎して土中にすき込む簡易な方法でも、効果が期待できます。

さらに、剪定した枝や巻き蔓なども丁寧に集めて、適切に処分してください。なお、剪定した樹の切り口から枯れたり、病原菌が侵入して発病する場合がありますので、ナシ、ブドウ、リンゴ、カキ、ウメなどでは切り口にトップジンMペーストまたはバッチレートを処理すると効果的です。

厳寒期に粗皮を激しく削ると、凍害を受けやすくなるので注意！！

2 樹幹の粗皮削りなどを行いましょう

果樹の樹皮は、古くなると表面に亀裂を生じ、デコボコになります。このデコボコした樹皮の隙間に、各種病原菌やハダニ類、カイガラムシ類、ハマキムシ類、シンクイムシ類などが入り込み、そこが越冬場所となります。

このため、樹皮の表面を鎌などで削り取って滑らかにすることで、病害虫の越冬場所を無くし、越冬する密度を低下させることができます。特に、枝の股になっているところは病害虫の越冬場所になりやすいので、念入りに削り取ることが重要です。

また、枝幹部に生じた輪紋病の丸いイボ皮病斑は、周囲の表皮まで含めて丁寧に削り取り、トップジンMペーストなどで傷口をふさぐ処理をしてください。

新芽が動く前までに散布しましょう！！

風のない穏やかな日に散布しましょう！！

3 休眠期の薬剤防除を実施しましょう

越冬病害虫に対して効果のある「石灰硫黄合剤」やカイガラムシ類やハダニ類などに効果のある機械油乳剤95やアタックオイルなどの「機械油乳剤」の散布が効果的ですが、機械油乳剤を散布する際には、厳寒期や樹勢の低下した樹への散布は控えて下さい。

また、石灰硫黄合剤と機械油乳剤の混合は絶対に避けてください。その他、使用の際はラベルの注意事項をよく読んで散布してください。

表1 落葉果樹（ナシ、リンゴ、カキ、ブドウ、ウメ）の冬季における主な防除薬剤（令和5年11月22日現在）

薬剤名	対象樹種	対象病害虫	希釈倍率	使用時期／使用回数	分類
石灰硫黄合剤	落葉果樹	カイガラムシ類、ハダニ類、越冬病害虫	7~10倍※	発芽前／－	F:M2 I:UN
	ナシ、リンゴ	黒星病	7倍	休眠期／－	
	リンゴ	腐らん病	10倍		
機械油乳剤95	落葉果樹(ナシ、リンゴ、カキ、モモ)	カイガラムシ、サビダニ、ハダニ類及びその越冬卵	16~24倍	－／－	I:UNM
	落葉果樹	カイガラムシ類	12~14倍		
アタックオイル	ナシ	カイガラムシ類、ハダニ類	50倍	発芽前／－	I:UNM
		ニセナシサビダニ	50~100倍		
	カキ	フジコナカイガラムシ	50倍		
	クリ、リンゴ	カイガラムシ類	50倍		

注) 1. 表中の※印は、農薬メーカーにより登録倍率が異なるため、ラベルで確認して使用してください。
 2. 石灰硫黄合剤は強アルカリ性のため、散布後の防除器具の洗浄、飛散による自動車等の塗装面の変色、散布者の皮膚への刺激などに注意してください。
 3. 表1の分類欄にはFRACコード、IRACコードを記載しました。

- 農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。
- 営農 News は J A 全農いばらき ホームページでもご覧になれます。